

川
涼
み

かわすずみ

夏の暑い夜、京都の夏の風物詩「川床」を各地で楽しむ様子がちらほら。京都では場所によって「かわゆか」「かわどこ」と呼び名が異なるのは、わざわざ場所を言わなくても、呼び名で場所を区別しています。

私たちが作る九条ねぎも、ねぎはねぎでも季節によって異なるストーリーがあるので「春葱」「夏葱」と呼び名を変えています。

農人たちは夏に向けて
心と体のスタンバイ。
このひと夏を越えることが
できるかが分かれ道。
みんなが喜ぶ合点、
畑のねぎと土間に
この夏成長していただきます。

市内の畑がメインの時期も変わり目、これから亀岡や美山など山間地へ収穫しに向かうことが多くなります。

ことねぎだより

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

今月の
ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

いよいよ夏葱のお届けシーズンに突入しました！

今月お届けするねぎは、美山と亀岡からお届けします。

山々に囲まれ、きれいな水、空気が流れている自然豊かな環境で育ったねぎです。

4月頃に定植したもので、今年の春は天候にも恵まれ、畝立てや定植作業が順調に進み、同じようにねぎも生育。冬、春の時期のねぎと比べて全体的に軽さがあり甘みも少ないですが、食べ応えあるしっかりとした葉は薬味として楽しむ冷奴、そうめんなど夏の料理でも存在感があります。



NO.146

2019年7月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

夏
葱

農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

夏に向かう今の農人たち

今年入社の若手農人は、業務も一通り習得し暑さにも慣れてきています。ただ、それでも暑いのは確か。大きいペットボトルに水を入れて凍らせ何本もて圃場まで持っていきますが、帰る頃にはカラになっています。

出勤・朝礼の時間も
サマータイムになりました

梅雨の時期の畑仕事

梅雨入りになると雨の日が多くなりその日の天候と相談しながら作業予定が日々変更になることも。雨が多いとねぎの生育も良くなりますが、同時に雑草の伸びも早く、病害虫も増えてくるので草刈りを定期的に行なったり、ねぎを守るために防除を行っています。

梅雨の時期、雨の日でもハウス内で播種作業をしたり、若手農人たちは、機械のメンテナンスや清掃なども行うことができるようになったりと日々成長していく様子が伺えます。これから夏本番！



朝日を浴びての収穫作業、まぶしいです！

雨の時期は耕すに泥の汚れが元固